

編集部より Vol.9

以心伝心と リアルワールド



夢を見た。闇夜にポツリポツリと明りが灯るように、人のところが変わり、その光が静かに広がって世界をすっぽり包み、明るく照らし出していく夢だ。そのように世の中が変わっていくんだと、その夢の中で妙に納得していた。

伝わる心

人の思いが誰かに伝わると確信が持てるようになったのは、勘の鋭い友人と一緒にの時だった。しゃべろうとする思いをいったん心に留めることの多い私はどうやら発信する力が強く、逆にしゃべる事の大好きな友人はキャッチする力が強いらしい。私の考えたことを、瞬時に一字一句違わず口にするのだ。最初は偶然と思っていたが、そんなことが何度も続くと、もはや疑うことなど不可能で、目の前の現実を受け入れざるを得なかった。

それは会社の中でも良くあることで、昨日もPC作業をしていると、見えないはずの社長からその内容について尋ねられた。そんなことはしばしばで、話が早いので仕事する上



では楽だったりする(苦笑)。事務所の中ばかりではなく、お客様のことを思い出していたら、店でばったり会ったとか、急に電話がかかってきたりとか…、そんな経験をされる方も多いのではないだろうか。

今年の夏は、野菜の発注を担当している斉藤君とTシャツの色合わせを楽しんだ。春先ごろ彼に、先に書いたようなシンクロの出来事を話したことがあったのだが、ある時彼が、僕とTシャツの色が良

く重なる事に気がついたのだ。最初のうちは、お互い目を合わせて笑っていたが、別に打ち合わせしたわけでもないのに、1週間6日のうち4日くらいは同じ色だったような気がする。まあ、Tシャツの色といっても限られているので、偶然ということもあるだろうが、笑っちゃうほどピッタリの確立だったこともある。

これらの現象から考察すると、どうも心の思いというのは電波のように飛んでいるらしいのだ。

以心伝心

たとえば、イライラしている人がそばに来ると、なんとなく雰囲気で分かったり、気配を感じて振り向くとパッと目があったり(ときどき、きれいな後ろ姿だなぁ〜と女性を眺めていたら、突然振り向かれアセル事がある)、そんな経験は誰しもあるのではないだろうか。

人ばかりではない。ペットを飼われている方ならば、彼らが無言で訴えるのを感じ、何を欲しているのか分かるのではないか。むろん、人間の場合も母親は赤ん坊に対して同様の感覚をお持ちだろう。また、菜園を持ち野菜を作られているお客様からは、植物に話しかけるとよく生育するという話をお聞きすることも多い。無生物の石のようなものでさえ、ネイティブアメリカンの先住民たちは会話できたという。

虫の知らせという言葉もあるように、遠く離れた家族の異変を察知したりする。そのように人は、何かの気配や見えない心の思いを感じとることができるようだ。テレパシーなどと言うと仰々しいが、昔の人は以心伝心と言ったその感性。このように、生

命には以心伝心のメカニズムが組み込まれているの
だろう。一斉に向きを変える鳥や魚の群れ、鹿など
の動物たち。人間だって例外ではない。ただ使われ
なくなり、退化してしまっただけではなかろうか。
いったいなぜ、このような事が可能なのだろう。

脳に隠された秘密

一応、理系の出身だった（ほとんど授業は寝てば
かりだったが）ため、ついつい理屈付けしたくなっ
てしまう。そんな私の仮説はこうだ。

おそらく人の脳は、思いという電波の発信機でも
あると同時に、アンテナを備えた受信装置でもある
のではないか。そして、テレビやラジオのチャンネ
ルを合わせるように、その周波数が同調した時に、
受信可能となるのではないだろうか。病院では「脳
波」が観測されるように、確かに脳内には何らかの
波（周波数）が流れているのだ。

また、最近、電磁波による不調を訴える人が増
えている。まほろばでも相談を受けることが多く、
電磁波の測定に出向くこともしばしばだ。人工的な
電磁波によって本来の自然な体内の周波数が乱さ
れ、様々な体の不調に悩まされるというものだ。そ
れは、人には電波を感じ取るセンサーがあることを
意味するのではなかろうか。

そして、単なる受発信ばかりではなく、今風に言
えば、スマホやiPadのようなタブレットPCから
LTEの高速無線通信でネットにつないで情報を得る
ように、意識のデータベースに直接つながってアイ
ディアをダウンロードしたり、ヒラメキを得たり
することすらできるのだ。

心のチャンネル

そのカギを握るのが、心ではないかと思うのだ。
心のダイアルをどこに合わせるかで、つながる先が
決まる。要は周波数を合わせるチャンネルのような
ものが心なのだろう。明るい思いを抱けば楽しい出

来事が、暗い思いや愚痴ばかりだと、嫌なことが重
なったりするものだ。心のチャンネルの合わせ方し
だいで、どんな映画や映像を見るのか、どんなサイ
トにアクセスするのか、そこからどんな情報を得る
のかが決まるともいえる。

その心を私たちはずいぶんと無自覚に使っている
のではないだろうか。

心の持ち方が人生を大きく左右するのは、実はそ
んなシステムが働いているからではなかろうか。

気分転換の効用

とはいえ、思い通りにならないのが心でもある。
ついついカッとなったり、思い通りにならないとイ

ライラしたり、人を責めたり、ち
よっと誰かから何かを言われただ
けで傷ついたり…。そんな風に揺
れ動いてしまうのが人情というも
のだ。

そんな心の迷いを払しょくする
ためにさまざまな宗教や道（茶道
や華道、書道、武道など）という
ものが発達してきたのではないだ
ろうか。

もっとお手軽に心をリセットする方法が、気分転
換の効用である。ポイントはできるだけ頭を使わず、
“空”^{から}にして、感じる事を楽しむことだ。たとえば散
歩だっていい。陽の光に当たりながら思い切り目の
前の風景を楽しみ、空気の匂いを嗅いでみるのだ。
心を空にして自然や大地からのメッセージに耳を傾
けること。それらもまた、電波を発しているのだ。
そうして感じることに焦点を合わせた時、急に世界
が開けて見えてくる。今まで目に入らなかった道端
の草花や世界の美が心に映るようになるのだ。

星や月、太陽のメッセージ、海や川、山々の語る
メッセージは何か。時に足元の小さな一輪の花が、
文明生活に疲れた私たちの心を癒し、人生の道を指
し示してくれる事さえある。紅く燃えながら、風に
ゆっさゆっさと揺れる木々の枝を観ていると、ああ、
生きている！と感じる。その生きている彼らの作り
出す酸素のおかげで、私たちは息ができているのだ。



存在の美

その時、なんとも言えない彼らとのつながりを感じ、遺伝子が震える。生きている存在の神々しさに圧倒される。何を隠そう、私たちの誰も皆、そのように美しい存在なのだ。

目が曇るのは、レッテル貼りのせい。誰かを、そして自分すら、決めつけてしまう。その貼り紙のせいで、私たちは自らの神性を失っている。だからこそ、ときどき無になったらいい。美しいものに触れ、目の前に隠された宝石に気づき、こころを満たそう。それが私たちの真の姿なのだから。

空になると宇宙の中心とつながる。それは目の前のあらゆるものに美が宿るという気づきであり、すべてのものが愛しい存在であるという目覚めを促す。そのように目の前の世界に愛を見出してゆくことが大切なのだろう。

いま生きてあるだけの幸せ

平和もしかり。それは求めて得られるものではなく、すでにここにある事に気づくことで手に入られるのかもしれない。

けもののように飯を食い、草や石ころのように秋風に吹かれ、幾分斜めに傾いた、暖かな陽を浴びる。それだけのことなのに、心は満たされ、なんともいえぬ至福に包まれる。

頭の中のごちゃごちゃした考えを手放して、せせらぎに包まれ、鳥たちの歌に耳をすませ、ゆっくりと鼻から季節の風を胸いっぱい満たすと、かけがえのない宝を手をしていることに気づくのだ。チューニングすることすら手放し、頭を空にする。五感に身をゆだねる。考え、分析し、思い出し、心配する思考回路を止め、ただ感じるだけ、気づくだけのモードに切り換える。それが大切だ。そんなときは、この世がそのままで楽園なのだと気づく。



誰も皆パーフェクト

では、いったいこの世が地獄のように住みにくいのはどうしてだろう。

そう、すべては私たちの心のダイヤルの合わせ方なのだろう。人からダメ出しされると悲しくなるけれど、そんな時に思う「自分はダメだ」という思いすら、もしかしたらどこか遠い過去の記憶という情景にダイヤルが合ってしまっている弊害かもしれない。

すべての思い込みや、囚われをはずしてみたならば、きっと私たちは皆パーフェクトな存在なのだろう。木や草でさえそうなのだから。

レノンがイマジンで歌っていたように、もし世界中の人がそのように平和に包まれる感性と共に暮らすことができたなら、世界はどうなるのだろう？ あんがい平和を手に入れるのは、そう難しい事ではないかもしれない。

イザというときには…

それでも、なかなか頭を空にできないことだって多々ある。悩みや心配事、ストレスが重なると、外を歩いていても心はその事ばかりになってしまう。

そんな時おススメなのが、言葉の力を利用することである。嫌なことや困ったことがあるごとに「ありがとう」や「愛しています」という言葉を心の中でつぶやくだけで、嫌な流れに歯止めをかけ、方向転換できるのだ。(詳細は五日市さんの『ツキを呼ぶ魔法の言葉』や『ホ・オポノポノ』などご参照ください) これは言葉に宿る音の周波数による影響をうまく活用した手法だと考えられる。

こんな簡単なことで心をリセットできるのだ。もちろん効果には個人差があるだろうが、継続することで心が楽になり、その事が良い流れを生み出す結果につながっていくようだ。難しいのは継続すること。情報は知っているだけでは意味がなく、使ってこそ活きるのだから。

リアル・ワールド

有史以来閉ざしてきた、この重い心の扉を開放できたら、と想像できるだろうか。

普段私たちの多くは、心にシャッターを下ろしている。時に気配を消し、固くガードする。それは、侵略の歴史、互いに縄張り争いしてきた歴史ゆえなのだろう…。その心を開放してみる。ただし、闇雲にやりたい事をやればいい訳ではないだろう。そこには、心の波を利用して未来を作る能力を、正しく使うことが要求される。正しくとは、自分という小さな生命を満たすと同時に、全体という大きなイノチを満たすよう心がける事が肝要だろう。

すべてがあからさまな世界。

そうして生み出される、いっさい秘密の無い世界。はたして、人はそんな世界を望むのだろうか。今の私たちに考えつくことさえできない、そんな世の中になったら世界はどうなるのだろうか。

うそをつく者も、人をだます者も、陰でこそこそする者も、みな白日のもとにさらされる。しかし、その世界にはもはやそんな思いを抱く者さえいないのだ。

皆正直で、誰もが家族で、何も隠したりする必要すらなく、生まれた本来の姿でいられる。誰もが子供の時そうだったように…。すべて大人になる過程で身

につけてきたものばかりだ。人に騙されないよう、世の中をうまく渡れるよう、親や友人や様々な経験から学び、先祖代々、自己防衛策として身につけてきたのだ。

本当はそんなものいらない。

はだかの己でいいんだ。

とりたてて良く見せようとか、誰かに評価されようとか、そんなことどうだっていい。

赤ん坊が美しいように、自然がそのまま美しいように、すべての人がありのままで美しい。すべての人がそのままの自分でいられて、誰もがそれを認

め、互いを必要としあい、共にたたえあい仲良く暮らす。そんな世の中に住んでみたいとは思わないだろうか。

まあ、隠し事の多い今のこの世界もおしく、そこで学ぶことだって多いのだが…。ただ、同じ経験であっても、もっと楽しむ事で成長することだってできるはずなんだろう。

そんな風に考えると、今の世界は助走期間なのかもしれない。壁にぶつかって学ぶやり方から、壁のない世界へと一歩踏み出すための。羽化する前の毛虫には、蝶として天空を舞う自分や仲間の姿など想像すらできないが、いつか必ず、その自由な世界を知るときが来るのだ。蛹のままで居続ける事は死を意味するのだから、恐れずに変化に心を開いていく事が大切なのだろう。

感謝の想いが広がる世界

いろいろと書いてきたが、感じる心を研ぎ澄まし、心が伝わると知るだけで、何か少し変わるような気がする。口に出さなければ心で怒っていてもいいって訳にはいかないから、自分の心そのものを変化させようと努力する事になる。不正が明るみになったりするの、時流なのかもしれない。結果的には、たぶん良い世の中になるんじゃないだろうか。

大切な事は、心地良い思いをどれだけ自分の中から発する事ができるかどうか。

例えるならば、今与えられているものに感謝する思い。もし仮に、そのような心の波長が周りに放出されたとしたら、その場はいったいどうなるだろう。そして、その電波は出力の強さにもよるが、私たちの想像以上に広く伝わっていくのかもしれない。

さらにもし、もっとたくさんの人の心の波が、穏やかさで満たされ、愛に満ちた周波数を周囲に放出し始めたならば、どうだろう。おそらく、そのように真に平和な世界が実現してゆくのではないだろうか。まるで、先日見た夢のように。

(写真/文 編集部: 島田 浩)

